

■今月の特選句

2018年5月

鼻の下伸び縮みさせ花粉症

堀川明子

可笑しい風景を生活の中に発見すること。これが滑稽俳句の第一歩である。主人公は絶世の美女かも。読者の想像で可笑しさが増幅する。

山笑ふツボに嵌ってしまひけり

小川鈍太

対象の擬人化で大方は滑稽句となる。そして誇張で可笑しさが増す。句末の「けり」をやめて「笑う山ツボに嵌ってしまひたる」としてもよい。

大陸の言語飛び交う花名所

有富洋二

俳句には時代を記録する機能がある。これまで誰も句材として目をつけていないものを見つけ、誰もしていない表現ができれば、俳壇史に残る。

風強し春何番か解らない

赤瀬川至安

肩の力を抜いたとき、滑稽句が生まれる。わからないから「わからない」と正直に書いた。それが結果として「ヒネリ」となっているのである。

雪とけて村一ぱいの爺と婆

荒井良明

小林一茶の句を本句取りしたもの。本句の「子どもかな」を、真逆の「爺と婆」にして現代を描いた。笑いと哀しさが表裏一体となった一句。

親の背を見て後継がぬ卒業子

青木輝子

既成観念を裏切ることで滑稽が生まれた。これは現実を凝視したときに可能となる。誰も発見していない真実を見つけたのである。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

天に告げ口真つ逆様に落雲雀 ・・・告げ口鳥と改名するか	相原共良
五七五の会話をかはし黄水仙 ・・・俳人なみの感性をもつ	田中 勇
矢印に案内されて桜餅 ・・・食べたいのなら逆らわぬこと	林 桂子
咲き競ふお花見女子の膝頭 ・・・若いパワーをいただきたいね	壽命秀次
長靴の単純骨折春の水 ・・・素直で単純これが一番	久我正明
スカートをめくつて無罪春一番 ・・・ならばワタシも風になりたい	上山美穂
人ごみにこっそり捨てにゆく春愁 ・・・人によつてはトラック一杯	小林英昭
看護師のあの手この手のあたたかし ・・・人の優しさ何よりも効く	飛田正勝
呑みすぎの気休めに飲む蜆汁 ・・・サプリメントと比べたらヨシ	田村米生
トランプの立てたる指や冴返る ・・・今年の寒さこれで納得	原田 暉
蹲（つくばい）に赤き声あぐ落椿 ・・・第二の人生まだまだ美（は）しき	久松久子
ふるくさい言葉で誉める春の城 ・・・誰も詠めない俳句で誉めよ	山本 賜
ドレミファを外し大声一年生 ・・・将来きっと大物になる	渡部美香

■今月の滑稽句

- | | |
|--|----------------------|
| 【佳作】 庭に來し初音の少し遠慮がち
麗らかや爺は抱く子に話しかけ | 相原共良
相原共良 |
| 【佳作】 パワハラに折れて凹んで五月闇
転居先姥捨山です四月馬鹿 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 鳥雲に入る脳外科の貼りぐすり
田鼠化しせつかくだから鶉となる | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 事実たんぽぽ小説よりも黄なりけり
蛙(かはづ)組みあふ決まり手ずばり河津掛け | 荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 いっせいに出了とこ勝負つくしんぼ
思うほど見映えなくなり更衣 | 有富洋二
有富洋二 |
| 天守閣陣取ってをり春あらし
捨てがたき物をあさりて春うらら | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 吐く舌の寡黙と饒舌の浅蜷かな | 井口夏子 |
| 飽食のすずめあひるの真似歩き | 池田亮二 |
| 【佳作】 襦袢(ぼろ)を着て心はおしゃれ春ファッション | 池田亮二 |
| タイヤ替へ車も我も春うらら
ビジネスホテルベッドで女子会春の宵 | 石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 【佳作】 四月馬鹿騙してくれよ体重計 | 石塚柚彩 |
| 【佳作】 始めて乗れた鞆記念日記憶して
梅を撮るカメラに注ぎ込む年金
いつの間にか空母までいる春の海 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 毎年の脳の整備士つばくらめ | 伊藤洋二 |
| 【佳作】 先生は近づきやすしクラス替え
離れ行く宇宙の果ての春田打ち | 伊藤洋二
伊藤洋二 |
| ちくわには穴ある不思議春愁 | 稲沢進一 |
| 【佳作】 夜桜や人には人の夜の顔
石投げて何も答へず山眠る | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 泥付きを泥バックてふ春大根 | 稲葉純子 |
| 【佳作】 定年の夫は寝釈迦の顔をして
嘘一つつけぬふりして万愚節 | 稲葉純子
稲葉純子 |

- | | |
|---|----------------------------|
| 煮立つれば口開く浅利合掌す
【佳作】 草取や我慢くらべの夫と妻 | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| 風車風に反抗してをりぬ
【佳作】 葉桜や忘れた頃に人來たる | 上山美穂
上山美穂 |
| 春眠は怠け心の免罪符
生涯は現役なるも竹の秋
【佳作】 老鶯や中年という日のなくて | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |
| 【佳作】 彼岸参り終へてこの世の無駄話
詠みすてて春の句どれも長々し
一振りの鍬にころりと若竹子 | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| くるくると廻るスノーボーBOYS BE
【佳作】 春の風邪少し透かして行きにけり
春疾風布団巻き込み急停車 | 太田史彩
太田史彩
太田史彩 |
| 【佳作】 野遊びの仰向け無限の空の下
春の雲流れて龍のごときかな
水温む中州に川鶉憩うかな | 小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 煽てればまだまだ揚る雲雀かな
竜天に登り精進落としかな | 小川鈍太
小川鈍太 |
| 花びらにカンパイ君も左利き
風船も眠りについて夜の駅
【佳作】 春日傘いまさら嫁にゆくでなし | 加川すすむ
加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 幻の小人が乗りぬ花筏
小鴉の親より肥えて餌をせがむ
飛行機の轟音の如春一番 | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| 朝桜遠くにちり紙交換車
【佳作】 頭蓋骨ゆるみ桜は枝垂れおり | 久我正明
久我正明 |
| オフレコのマイク付き出しつくづくし
【佳作】 これ以上上を目指すな薔の臺
パワーシャベル揺らして零す春の土 | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |
| つくづくし手足の生えてしまひけり
【佳作】 薄型のテレビ叩けぬ昭和の日
天を突く筈付度など知らず | 桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子 |
| 【佳作】 人ごみにこっそり捨てにゆく春愁
寄居虫のいささかにほふ着たつきり | 小林英昭
小林英昭 |

- 空澄むや浮雲ひとつ春の窓
紅梅の香をたしかめる鼻をよせ
【佳作】特賞あげたし庭椿の咲きつぷり
近藤須美子
近藤須美子
近藤須美子
- 【佳作】いつからか似た者夫婦挿し木つく
蝌蚪を見て財布の紐を締め直す
醜聞の話たけなは春の雷
下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩
- 【佳作】おお怖し妻が声色や恋の猫
春の義理にチョコッと触れるハートかな
壽命秀次
壽命秀次
- 【佳作】同列の以下同文や卒業す
一番に成り損ねたる春二番
偏差値は右肩上がり春の風邪
白井道義
白井道義
白井道義
- 春泥や小動物の足の跡
【佳作】菜の花やクレーンの爪の容赦なし
鈴木洋子
鈴木洋子
- 【佳作】冬終る人參らしい匂いの人參
菜の花よもう一度聞く来年も黄でいいか
ずんぐりむつくりの人參は冬を堪えたから
鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝
- 公園に弁当持参花見かな
【佳作】春の風ボール遊びの子どもたち
トートバックスポーツシューズ山笑ふ
鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也
- 御殿振り煽てて馳走万愚節
【佳作】花筵上司の隣嫌われて
智恵詣研く悪知恵餓鬼大将
高田敏男
高田敏男
高田敏男
- 春暁や曙前に帰るから
【佳作】春眠や眠剤も負ける大軒
花曇花粉の中を一万歩
高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ
- 【佳作】春めくや岡山城下に立ちつくす
陽春の飛田新地の視察かな
田中 勇
田中 勇
- 要らぬのにぞめき買ふ破目植木市
茗荷の芽食べたに非ず今日この頃
【佳作】海馬はや白旗掲げ春爛漫
田中早苗
田中早苗
田中早苗
- 【佳作】春灯下悪書は良書を駆逐する
鷹化して鳩となり雀躍動
田村米生
田村米生

麗らかや恋人の聖地婆集ふ	月城花風
【佳作】 二人旅焼蛤の口開く	月城花風
桜道自動運転熱望す	月城花風
花吹雪露地裏の月キラキラ	土屋泰山
花屑のワルツを見てる犬吠える	土屋泰山
【佳作】 目借時国会中継あくびする	土屋泰山
【佳作】 春隣点滴棒を押し歩く	飛田正勝
病む窓の桜惜しみて退院す	飛田正勝
春愁といひてごまかす怠け者	新島里子
着ぶくれをはいでやうやく風呂に入る	新島里子
【佳作】 王よりも飛車を大事に日の永き	新島里子
人の世の亀鳴けなくて泣いている	西をさむ
大笑の顎の外れし鯉のぼり	西をさむ
【佳作】 のびるのびる鼻毛のはやさ夏は来ぬ	西をさむ
【佳作】 子雀のやんちゃを笑う鬼瓦	花岡直樹
枕木のベンチを彩る花見膳	花岡直樹
行く春を惜しみて今日もビール飲む	花岡直樹
苦味より酸味がよろし燃ゆる春	林 桂子
【佳作】 釣り人の何か釣りあげ春の海	林 桂子
【佳作】 四月馬鹿開きしままの改札機	原田 暉
やどかりの捨てし空家や取り毀(こわ)す	原田 暉
【佳作】 ロープウエーに放り上げられお中日	久松久子
三寒四温息子の機嫌また変はり	久松久子
おしやべりは春ショールほど午後のカフェ	日根野聖子
俺流を生きているさと春の鴨	日根野聖子
【佳作】 春の雲ながめる口のぼかんかな	日根野聖子
【佳作】 もて息子持たぬに虫歯バレンタイン	廣田弘子
鼻の穴にすぐに反応杉の花	廣田弘子
八十なり正座の雛に憧れる	廣田弘子
生温き風巻き上げて花粉飛ぶ	細川岩男
【佳作】 春暁や目覚めて老いは急くとイレ	細川岩男
花疲れ夢は極楽天国か	細川岩男

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | ことごとく袴脱がされつくづくし
蜜の味吟味黄蝶の几帳面 | 堀川明子
堀川明子 |
| | 袴をとられヌードを恥じるつくしんぼ
春泥に遊び呆けて下校の子 | 本門明男
本門明男 |
| 【佳作】 | 耕しや句会に脳を掘り起こす | 本門明男 |
| | 落椿歩道に並べ誰を待つ
一番と味を褒められ鱈かな | 松井寿子
松井寿子 |
| 【佳作】 | 抱きつけば大樹は花を散らしけり | 松井寿子 |
| | 四月馬鹿インターホンより呻き声
うぐいすの吃りを拾うインターホン | 松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 | 春雷や便座にすくむ妻を呼ぶ | 松井まさし |
| | 花衣解けばつけ文否鼻紙 | 南とんぼ |
| 【佳作】 | 花の佳句たしかに書いたメモが無い
焼き色は片面だけです春の雷 | 南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ |
| 【佳作】 | 芋を植う畝に膝あと残しつつ
四分の熱あらば色増す薄紅梅
見え隠る試着の小僧どこか春 | 椋本望生
椋本望生
椋本望生 |
| 【佳作】 | 啓蟄や動き出したる腹の虫
赤信号桜ながめる余徳かな
初雛のはやこの家に染まりけり | 村松道夫
村松道夫
村松道夫 |
| | ひと日けふ何事もなし花の夕 | 百千草 |
| 【佳作】 | 野良猫に縁側盗られ花の昼
そら真青ららさくさく桜かな | 百千草
百千草
百千草 |
| | 卒園児化粧崩れ指摘する
一円の落し物かと山笑ふ | 森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 | ストローにかじりついてるシャボン玉 | 森岡香代子 |
| | 紋付の羽織はたはた紋黄蝶
財布屋の魂胆今も春財布 | 八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 | 生真面目に嘘を考へ四月の馬鹿 | 八木 健 |
| | 「おーいお茶」ほしくなる日の薄暑かな
ボークある草野球かな薄暑光 | 八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 悪女とは別れて来たり夕薄暑 | 八洲忙閑 |
| | 沢山の噂を運ぶ杉の花
重責を担う細腕種案山子 | 八塚一青
八塚一青 |
| 【佳作】 | 種蒔きをしつつ話に花が咲く | 八塚一青 |

	創始者の血統書付き新社員	柳 紅生
【佳作】	付度の風見鶏めく新社員	柳 紅生
	のどかなり孫とペアーの紙おむつ	柳 紅生
	いぬふぐり子犬排尿散歩路	柳澤京子
	デイケアの初夏の難問頭の疲労	柳澤京子
【佳作】	驚きやぬっと顔出す墓蛙	柳澤京子
	雪割草とついでいいのは写真だけ	柳村光寛
	髪見られ割引される春の展	柳村光寛
【佳作】	良薬と心して飲む冷し酒	柳村光寛
	春雨の心映すや傘模様	山下正純
	若松の植樹そのうち背比べ	山下正純
【佳作】	一人では首の寂しきチューリップ	山下正純
【佳作】	持ち替えて持つても長い春の露	山本 賜
	傑作や自撮りの花と吾が影と	山本 賜
【佳作】	世の中は狐と狸万愚節	横山喜三郎
	せっかくの予約がふいに早桜	横山喜三郎
	ほうたるに救はれてゐる峡(かい)の村	横山喜三郎
	雛壇にあられあり猫しらんぷり	吉川正紀子
	紅梅の香に誘はれて頬寄せる	吉川正紀子
【佳作】	花時の終わり梅の実置き土産	吉川正紀子
	草茂る牛のげっぶが温暖化	吉原瑞雲
	葉桜になって鎮まる桜騒ぎ	吉原瑞雲
【佳作】	しがらみをぶちぎり翔べ卒業生	吉原瑞雲
	待ち人の着信音か春帽子	渡部美香
【佳作】	アタックを放つ百歳ゴム風船	渡部美香